

第10回登別市立図書館整備検討委員会 議事録要旨

■ 日 時：令和7年5月14日（水）午後6時00分～午後7時40分

■ 場 所：登別市市民会館 中ホール

■ 出席状況：委員 11名

行政 7名 教育部部長
教育部参与
教育部次長
教育部図書館長
教育部図書館主査
教育部図書館主任
総務部企画調整グループ総括主幹
傍聴 9名

1 開会（事務局）

- (1) 4月の会議が延期になったことに対してのお詫び
- (2) 事務局の4月1日付け人事異動について紹介など
- (3) 本日の進め方について説明

ア 前回検討委員会以降の動きについて報告

- a 前回の会議は様々な意見をいただき事務局が設定した議題にも入ることができなかった。委員の一部から、まずは図書館協議会委員と意見交換すべきではないかとの指摘をいただき、これまで2回にわたり意見交換を行った。
- b 図書館協議会委員との意見交換の結果、本図書館整備検討委員会を一時休会して、まずは図書館協議会において協議すべきではないかとの考えに至った。協議事項としてその進め方についてご提案させていただきたい。

2 説明（事務局）

- (1) 前回の会議以降、図書館協議会委員と次の内容について意見交換を行った。

ア 移転以外の選択肢（現施設の改修による継続使用など）

イ ショッピングセンターアーニスの経営状況に関する聞き取り結果

ウ 仮にショッピングセンターアーニスに移転する場合の想定配置図

- (2) 意見交換の結果

ア まずは図書館協議会委員と市立図書館に求められるものを実現するためにベターな選択肢は何かを検討すべきとの考えに至った。

イ これまでの会議に多くの時間を費やしてしまったことは、事務局としても至らなかった点が多くあったと考える。

3 協議

- (1) 今後の検討委員会の進め方について（事務局）

- ア 教育委員会としては、老朽化などの状況から現施設を長期間にわたって使用するのには難しいと考え、図書館機能を維持するため何らかの方策を考えなければならないと考える。これまで有効な施策をとってこれなかった部分については、財政状況等あったにしても、市として真摯に反省しなければならない。また、市立図書館の今後のあり方について責任のある対応を取らなければならないと考える。
- イ 図書館を中長期にわたって維持していくためには、将来の新築を目指しながら既存施設を活用して移転設置するのが現実的な選択肢と考える。
- ウ 補助金活用の可能性を考えると、ショッピングセンターアーニスへの移転が現実的な選択肢と考える。
- エ 移転の前提として、アーニスで図書館機能を維持することができるか等について検討しなければならない。
- オ 図書館整備検討委員会を一時休止し、図書館協議会にアーニスへの移転の是非について諮問を行い、その答申をもって7月を目途に図書館整備検討委員会を再開したい。

(2) 委員からの主な質問等（下線部が市側の回答）

- ア アーニス移転は、意見交換会での決定事項ではないということで良いか。
→（教育部局）決定ではない。
- イ 7月に本図書館整備検討委員会を再開する時のメンバーは同じか。
→（教育部局）同じメンバーで一度再開し、例えば、アーニス移転を容認していただいた際のその後についてはもう少し検討したいと考えている。
- ウ 意見交換は非公式で行われ、この図書館整備検討委員会と同じ内容になった。今後のスケジュール等について確認したい。
→（教育部局）諮問、協議、答申となるので最低でも2～3回は発生し、協議の部分は出席人数が規則で決まっていることから非公式な会議になるかと考える。
→（委員）図書館協議会5名の委員だけで移転と決めるのは、健全ではないのでは。
→（教育部局）図書館協議会としての答申なので、5名だと少ないということではないと考える。
→（委員）本図書館整備検討委員会は初めから同じ内容を繰り返して、その度に溝が深まっている。期限付きではなくて無期限で休止して、一からやり直してほしいと意見交換の時に話した件については。
→（教育部局）スケジュールのお話をさせていただいたが、7月までに決まらなければ補助金の問題等あり、一から始めても今の本館を継続利用する方向性しか残らなくなる。
→（市長部局）限られた時間ではあるが図書館協議会に諮問し、ある意味一から議論を行い、その結果をもって再開とお話をさせていただいていた。図書館協議会委員の意見を聞きながら、利用者にも参加いただくなど積み上げるよう

に議論をして、答申の結果によらず7月には一度再開してこの組織は終了とさせていただきます。

→（委員）前は時間をかけて話し合うと言われたのが、なぜ7月を期限としたのか。

→（教育部局）8回目では移転というところまで決まっていたので、スケジュール的に充分だと思っていたが、その後は議論に入れず時間がかかってしまい、リミットが近づいていると認識している。

→（副委員長）委員の話だと一からという意見で、行政としては期限があるという説明だとしたら、前回の会議にあった根幹の部分を小集団で話し合う必要があるということで今回の提案があった。ベストではないがベターなやり方という理解をしているが、よろしいか。

エ （ウ）の意見に同感。2回の意見交換は、行政の考えは聞けたが肝心なところは議論になってない。図書館協議会で話し合う機会としては反対しないが、噛み合わない部分を理解しないと平行線だと思う。また、意見交換の内容の説明が簡潔すぎるのでは。

→（市長部局）2回の意見交換の内容説明は、結果として一端休止して図書館協議会に改めて諮問となったので、細かな部分の報告は控えさせていただいたが、図書館協議会の委員が抱く疑問には、一からお話させていただき、7月に再開する際には資料も含めて議論について細かくお知らせしたいとは考えている。

→（委員）これまでの噛み合わなかった部分を含めた検証を出していただきたい。捉えどころが違くと議論が割れる恐れがある。

→（副委員長）検証というか、すれ違いを埋めたいという手法の一つであれば、非公式なかたちで詰めていただければと思うが、事務局いかがか。

→（市長部局）すれ違いが生じないかたちで進めていきたいと思っている。

→（教育部局）一定程度の溝を埋めるべく協議を続けて参りたいと考え、その経過については、7月を目途に再開する際には内容をお示しできるかと考えている。

オ アーニスはいくまでも一時的措置なのに、多額のお金をかけてよいのかずっと疑問に感じている。また、アーニス以外の意見もあったのに、図書館協議会にアーニス一点で諮問するのはいかがなものか。

→（教育部局）図書館協議会への諮問は、あくまでもアーニス移転の是非を問うというかたちで進めたい。

→（委員）アーニス一点というのは私は疑問を残しておきたい。それと、図書館協議会の役割に利用者の声を聞くというがあるので、その辺を確認しておきたい。

→（教育部局）図書館協議会の中でやっていきたいと考える。

カ 今後の図書館のあり方について責任ある対応を取ると発言があったが、それがアーニスへの移転の是非について問うということなのか。これまで候補にあった幌別東小学校が消えた理由は。

→（教育部長）責任ある対応ということだが、少なくとも20年間の建て替えは難しいと判断し、現施設を継続利用することも難しい。そういったところを考えなければいけないと考える。幌別東小学校は、建物の構造や補助金の対象にならないということから現実的ではないという判断をしている。

→（別の委員）アーニスにも欠点はある。納得いくように説明してくれないか。最初から20年間新築はできないという説明をし続けているが、50年経ったら図書館は建て替えることになってるのでは。図書館に対して無策である。これまでの積み重ねてきた図書館の歩みなど理解したうえで移転の問題もやるべきだった。

キ 1回目と同様の話がこれまで続いている。

→（別の委員）本図書館整備検討委員会を一端休会した方が良いのではと意見させてもらったが、図書館協議会で本質的な議論をする場があるべきかと思った。幌別東小学校の候補が消えたのも疑問はあるが、今アーニス移転のチャンスと考えた時の補助金のスケジュールを考えると時間がないというのも理解できる。最終的な判断はここではないので、意見はしっかり出すべきだと思う。

ク 補助金はかたちが変わるので、それを人質に話しにはならない。それと、7月と期限を決めるのは図書館協議会にプレッシャーをかけるのではないか。意志を確認しながら進めていただきたい。

→（教育部局）議論の進み具合で若干変わる可能性はあるかと思う。また、補助金が変わるのは経験していることだが、今そこにある補助金を当てにせず、いつかあるかもしれない補助金を待ってこのままで良いかを考えると、目の前にある補助金を活用して参りたいと考える。

ケ この会には第三者の専門家がない。少人数で煮詰めるのは賛成であるが、建築家も図書館を建てたことがある第三者に書面で数値として表してほしい。

→（市長部局）非公式の意見交換でも、荷重の資料など数字として出して話をしていたように積み上げながらやらせていただきたい。専門の設計事務所にスポットでというのは難しいところがあるので、教育委員会の建築士や本検討委員会の委員で建築士の方に意見を伺いながら進められれば良いなど。

→（別の委員）図書館を建てたことのある建築会社に、大まかな概算、できれば明細的積算を出してもらうことは可能か。また、補助金の詳細もお話していただきたい。

→（市長部局）補助金の詳細に関しては資料を出すことは可能である。ただ、アーニス移転の際の事業費の部分を、どのような納得いただけるかたちで出せるかに関しては相談させていただきたい。

コ 意見交換の時に、アーニスの経営リスクの問題を書面で出してほしいと言ったが、口頭での回答になっている。それから耐荷重の問題も資料が少ない。

サ 7月までに移転の是非について答えが出なかった場合はどうなるか。

→（市長部局）無理にアーニスへの移転ということにはならないとは考えている。

→（委員）他の候補地ということになるのか。

→（教育部局）現時点でアーニス移転にならなかった場合は、他の移転先の検討もしないということになるかと思う。それは、財政的な問題である。

4 閉会（副委員長）

（１）本日の協議の確認事項

ア 進め方に関して、皆様のご確認をいただいた

イ 7月の期限に関しては若干の付帯条件が入った

（２）今後について

ア 本整備検討委員会が再開される際は、事務局から改めて案内がある

以上